

# 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	コリウカ`イ`ホクジ`ン ヨコハマシツ`イ`ウキ 公立大学法人 横浜市立大学								
フリガナ大学の名称	ヨコハマシツダイガクダイガクイン 横浜市立大学大学院 (Yokohama City University, Graduate Studies Program)								
大学本部の位置	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号								
大学の目的	横浜市立大学大学院は、大学において学修した幅広い実践的教養と専門的教養を基盤として、専攻分野を究め、高い学識と実務能力を養い、高度の専門性が求められる職業を担うための専門知識を培い、国際社会及び地域社会に貢献する人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	医学の進歩及びグローバルな医療情勢の変化に適切かつ迅速に対応していくために、今後も益々複雑・多様化していく看護ニーズに対応できる看護の実践スキルやシステム構築、看護理論を開発できる看護学研究者、ならびに看護学教育者、さらに、臨床や行政で優れた指導的役割や、より高度な専門業務を担う看護職者を育成することを目指す。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医学研究科 (Graduate School of Medicine) 看護学専攻 (Department of Nursing) 博士後期課程 (Doctor's Course of Nursing Science) 計	年	人	年次 人	人	博士(看護学)	平成30年4月 第1年次	神奈川県横浜市金沢区 福浦3丁目9番地	
【基礎となる学部等】 医学部看護学科 医学研究科 看護学専攻修士課程  14条特例の実施									
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等) データサイエンス学部データサイエンス学科 (80) (平成29年4月届出予定) 医学研究科医科学専攻博士課程[定員増] (20) (平成30年4月) 医学研究科看護学専攻修士課程から医学研究科看護学専攻博士前期課程へ名称変更 (平成30年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学研究科 看護学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	単位			
		科目	科目	科目	科目	18			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
組	新設分	医学研究科看護学専攻 博士後期課程	10 (10)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	5 (5)
	計		10 (10)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	- (-)
織	既	医学研究科 看護学専攻 修士課程	10 (11)	6 (6)	5 (5)	2 (2)	23 (23)	0 (0)	50 (50)
	医科学専攻 修士課程		44 (44)	33 (33)	33 (33)	0 (0)	110 (110)	0 (0)	84 (84)
の	博士課程		44 (44)	33 (33)	33 (33)	0 (0)	110 (110)	0 (0)	84 (84)
	都市社会文化研究科 専攻	博士前期課程	17 (17)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	14 (14)
設	博士後期課程		16 (16)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	0 (0)
	国際マネジメント研究科	国際マネジメント専攻 博士前期課程	17 (17)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	12 (12)
概	博士後期課程		17 (17)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	1 (1)
	生命ナノシステム科学 専攻	物質システム科学専攻 博士前期課程	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	25 (25)
要	博士後期課程		13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	9 (9)
	生命環境システム科学専攻	博士前期課程	12 (12)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	29 (29)
		博士後期課程	12 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	14 (14)
		生命医科学研究科 専攻	11 (11)	8 (8)	0 (0)	6 (5)	25 (24)	0 (0)	31 (31)
		博士後期課程	11 (11)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	20 (20)
計			125 (125)	89 (89)	38 (38)	8 (7)	260 (259)	0 (0)	245 (245)
合計			135 (135)	94 (94)	38 (38)	8 (7)	275 (274)	0 (0)	- (-)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		143 (143)	109 (109)	252 (252)					
	技 術 職 員		3 (3)	13 (13)	16 (16)					
	図 書 館 専 門 職 員		9 (9)	16 (16)	25 (25)					
	そ の 他 の 職 員		6 (6)	19 (19)	25 (25)					
計		161 (161)	157 (157)	318 (318)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	131,837.99㎡	0㎡	0㎡	131,837.99㎡					
	運 動 場 用 地	46,200.90㎡	0㎡	0㎡	46,200.90㎡					
	小 計	178,038.89㎡	0㎡	0㎡	178,038.89㎡					
	そ の 他	74,028.38㎡	0㎡	0㎡	74,028.38㎡					
	合 計	252,067.27㎡	0㎡	0㎡	252,067.27㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		106,056.19㎡ (106,056.19㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	106,056.19㎡ (106,056.19㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	50 室	101 室	24 室	8 室 (補助職員4人)	4 室 (補助職員3人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		医学研究科看護学専攻博士後期課程		15 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	・図書、学術雑誌、視聴覚資料とも看護学科および看護学専攻修士課程と共用 ・電子ジャーナルは特定不能のため、大学全体の数		
	博士後期課程 看護学専攻	8,424 [770] (8,424 [770])	561 [41] (561 [41])	21,772 [20,102] (21,772 [20,102])	260 (260)	- (-)	- (-)			
	計	8,424 [770] (8,424 [770])	561 [41] (561 [41])	21,772 [20,102] (21,772 [20,102])	260 (260)	- (-)	- (-)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		3,330㎡		239席	194,083冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		10,671.63㎡		テニスコート						
経 費 積 立 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	・図書費には電子ジャーナル・データベースの設備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		550千円	550千円	550千円	-千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	-千円	-千円	-千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	①: 卒業生	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	・図書購入費は医学部医学研究科全体で共用	
		②: 市内出身者	676千円	535千円	535千円	-千円	-千円	-千円		
		③: 市外出身者	826千円	535千円	535千円	-千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		横浜市からの運営交付金等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	横浜市立大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	国際総合科学部 国際総合科学科	4年	650人	-	2,600人	学士(国際教養学) 学士(学術) 学士(経営学) 学士(経済学) 学士(会計学) 学士(理学)	1.12 1.12	平成17年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号	

既設 大学等 の 状 況	医学部						1.00					
	医学科	6	90	-	540	学士(医学)	1.00	昭和27年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地			
	看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	1.00	平成17年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地			
	大学院都市社会文化研究科											
	都市社会文化専攻 (博士前期課程)	2	20	-	40	修士(学術)	0.90	平成21年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号			
	(博士後期課程)	3	3	-	9	博士(学術)	1.21					
	大学院国際マネジメント研究科											
	国際マネジメント専攻 (博士前期課程)	2	20	-	40	修士(経営学)	1.05	平成21年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号			
	(博士後期課程)	3	3	-	9	修士(経営学) 博士(経営学) 博士(経済学)	0.55	平成21年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号			
	大学院生命ナノシステム科学研究科											
	物質システム科学専攻 (博士前期課程)	2	30	-	60	修士(理学)	0.96	平成21年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号			
	(博士後期課程)	3	5	-	15	博士(理学)	0.53					
	生命環境システム科学専攻 (博士前期課程)	2	30	-	60	修士(理学)	0.91	平成21年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号			
	(博士後期課程)	3	5	-	15	博士(理学)	0.86					
	大学院生命医科学研究科											
生命医科学専攻 (博士前期課程)	2	40	-	80	修士(理学)	1.04	平成25年度	神奈川県横浜市鶴見区未広町1丁目7番29号				
(博士後期課程)	3	10	-	50	博士(理学)	0.51						
大学院医学研究科												
医科学専攻 (修士課程)	2	20	-	40	修士(医科学)	1.27	平成10年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地				
(博士課程)	4	60	-	240	博士(医学)	1.29	平成22年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地				
看護学専攻 (修士課程)	2	20	-	32	修士(看護学)	1.36	平成22年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地			平成28年度定員増(8人)	
附属施設の概要	<p>名称 : 横浜国立大学附属病院  目的 : 病院は診療、教育及び研究の機関として、市民医療、医療人の育成及び研究等に寄与することを目的とする。  所在地 : 神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地  設置年月 : 平成3年7月  規模等 : 敷地面積 : 27,296㎡、建物 : 64,375.16㎡</p> <p>名称 : 横浜国立大学附属市民総合医療センター  目的 : 病院は診療、教育及び研究の機関として、市民医療、医療人の育成及び研究等に寄与することを目的とする。  所在地 : 神奈川県横浜市南区浦舟4丁目57番地  設置年月 : 昭和29年4月  規模等 : 敷地面積 : 18,843.54㎡、建物 : 83,521.00㎡</p> <p>名称 : 木原生物学研究所  目的 : 遺伝子情報を基にしたバイオテクノロジーで、最先端の植物科学を研究し、実社会に役立てる研究・教育を目的とする。  所在地 : 神奈川県横浜市戸塚区舞岡町641-12  設置年月 : 昭和59年4月  規模等 : 敷地面積 : 27,307.51㎡、建物 : 8,752.21㎡</p> <p>名称 : 先端医科学研究センター  目的 : がんや生活習慣病、免疫アレルギー疾患等の疾患克服に向け、基礎研究の成果を臨床の現場で実践するトランスレーショナルリサーチ体制の確立を目的とする。  所在地 : 神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地  設置年月 : 平成24年12月  規模等 : 敷地面積 : 67,173.50㎡、建物 : 3,408.93㎡</p>											

## 授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究論	<p>(概要) 各専門領域において研究者として自立した研究活動を行い、高度に専門的な業務に従事するのに必要な研究能力およびその基礎となる学際的で豊かな学識を養う。本科目の責任教員(単位認定教員)は田高悦子である。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (10 田高悦子 担当/8回)  看護学研究のパラダイムを示すとともに、(1)研究テーマのレビュー、(2)構造化、(3)統合の手順に沿って展望する。地域ケアシステム看護学研究における個人、集団、地域全体のwell-beingの観点からの批判的分析を探索する。  (1 佐藤政枝 担当/1回)  看護ケアシステム開発学研究における人々の環境移行・適応と看護実践知の可視化の観点からの批判的分析を探索する。  (2 勝山(青木)貴美子 担当/1回)  看護管理学システム研究における組織・集団のマネジメントの観点からの批判的分析を探索する。  (3 渡部節子 担当/1回)  感染看護学開発研究における感染管理および看護ケアの質向上の観点からの批判的分析を探索する。  (4 赤瀬智子 担当/1回)  健康支援看護学研究におけるトランスレーショナルリサーチの観点からの批判的分析を探索する。  (6 廣瀬幸美 担当/1回)  発達療養支援看護学研究における小児・小児期発症の慢性疾患や障害をもつ人々とその家族のQuality of lifeの観点からの批判的分析を探索する。  (7 叶谷由佳 担当/1回)  老年看護学システム開発研究における高齢者のQOLおよびサービス向上の観点からの批判的分析を探索する。  (9 松下年子 担当/1回)  アディクション看護学開発研究における病理、予防、治療、回復の観点からの批判的分析を探索する。</p>	オムニバス方式
	医療倫理論	<p>(概要) 医学研究における医療倫理、生命倫理、臨床研究倫理などの歴史、背景、現状、課題などの高度な医療倫理的知識を具備し、自立して研究活動を行うための高度な倫理的学識を備える。本科目の責任教員(単位認定教員)は中村幸代である。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (5 中村幸代 担当/2回)  医療倫理論の概要と進め方についてガイダンスするとともに、学生が学修内容を総括できるよう指導する。  (16 大橋健一 担当/13回)  生命倫理総論として生命倫理の問題点、医学研究と倫理、臨床研究と倫理、生命倫理と法律、医療安全と倫理、生殖医療の進歩と倫理、ゲノムサイエンスの進歩と倫理、医療・医学研究における利益相反、研究倫理の近年の動向と課題をふまえるとともに、本学倫理審査・運営制度について解説する。</p>	オムニバス方式
	医療統計学	<p>(概要) 医療・看護において活用・応用できる統計学の基礎を学ぶとともに、医療・看護関連で多く用いられる多変量解析について活用できる能力を修得する。本科目の責任教員(単位認定教員)は廣瀬幸美である。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (6 廣瀬幸美 担当/3回)  科目の概要と進め方についてガイダンスし、利用可能なデータから意味ある分析結果を導き出し統計学的に妥当な解釈を行えるよう指導する。  (17 富田真佐子 担当/6回)  相関と回帰、多変量解析(重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析と主成分分析、パス解析と共分散構造分析)、および評価尺度の信頼性・妥当性について教授する。  (18 入江慎治 担当/6回)  データの分布と分散、標本調査、代表値と散布度、割合に関する推定と検定、標本平均の分布と平均に関する推定と検定、および多変量解析(一般線形モデル、生存分析)について教授する。</p>	オムニバス方式

## 授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護学教育論	<p>(概要) 看護学教育および看護教育学に関する基本的概念を学習するとともに、高度実践看護を提供できる看護職者や教育者の養成、そのための教育環境の充実、研究に必要な課題について検討、考察する。本科目の責任教員(単位認定教員)は佐藤政枝である。</p> <p>(オムニバス方式/15回)                      (1 佐藤政枝 担当/3回)                      看護学教育の法規、国内外の看護教育制度の歴史、教育政策、看護学教育者に求められる学習態度・倫理的態度等について教授し、学生が学修内容を総括できるよう指導する。                      (19 上國料美香 担当/12回)                      看護教育学創造への道、看護教育制度論、看護学教育課程論、看護学教育授業展開論、看護学教育評価論、看護継続教育論について教授する。</p>	オムニバス方式
	医療心理学	<p>(概要) 医療において活用・応用できる心理学の基礎知識と諸理論を学ぶ。特に、健康心理学の諸理論、集団力動とパフォーマンス評価に関する諸理論、ストレスマネジメント論等を修得する。また心理学の基礎知識と諸理論を医療で活用・応用するためのスキームを修得する。本科目の責任教員(単位認定教員)は松下年子である。</p> <p>(オムニバス方式/15回)                      (9 松下年子 担当/4回)                      医療心理学(臨床における心理学の活用)についてガイダンスするとともに、学生が学修内容を総括できるよう指導する。                      (20 角山富雄 担当/11回)                      健康心理学の諸理論、集団力動とその評価、医療現場における力動・相互作用・パフォーマンス評価、チーム医療における力動とマネジメント、ストレスとストレスコーピング・ストレスマネジメント、保健行動と病気の知覚、病者役割行動と心理、障害者役割行動、発達障害と医療・看護について教授する。</p>	オムニバス方式
専門 科目	看護ケアシステム開発学特論	<p>(概要) 慢性的な健康課題をもつ看護の対象の環境移行や適応と、そこで提供されている看護の実践知を理解するために、その学問的基盤となる国内外の理論やエビデンスを吟味するとともに、それらを勘案したケアプログラムおよびケアシステムの開発と理論構築のための理論体系について探求する。本科目の責任教員(単位認定教員)は佐藤政枝である。</p> <p>(オムニバス方式/15回)                      (1 佐藤政枝 担当/11回)                      看護ケアシステム開発学に適用される理論について概観するとともに、主に慢性的な健康課題をもつ人々の環境移行や適応、看護実践における知の可視化、看護実践モデルの開発、尺度開発等に関する国内外の研究動向をレビューし、ケアプログラムおよびケアシステムの開発と理論構築のための理論体系を検討する。                      (11 塚越みどり 担当/4回)                      慢性疾患患者の症状アセスメントと症状緩和に関する国内外の研究動向をレビューし、ケアプログラムおよびケアシステムの開発と理論構築のための理論体系を検討する。</p>	オムニバス方式
	看護管理学システム特論	<p>(概要) 急速に進行する高齢社会において病院や地域の多職種・多機関との連携や組織のマネジメントにおける理論と実践の統合が重要視される。看護管理学や関連分野における理論を理解し、最新の研究動向やエビデンスに基づく理論と実践の統合にむけた看護管理学の研究基盤となる理論的体系について探求する。</p>	
	感染看護学開発特論	<p>(概要) 医療関連施設における感染予防対策のエビデンスやHigh impact interventionの手法としてのケアバンドルに関連する先行研究、そして感染看護ケアにおける看護介入に関わる国内外の先行研究、特に先駆的研究を探索し、批判的にレビューする。また、医療関連施設内における感染管理および感染に関わる看護ケアとしての課題を多角的に掌握し、課題解決に向けてこれまで報告されているエビデンスをもとにしたケアバンドルや看護介入プログラムを開発するための理論体系について探求する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	健康支援看護学特論	<p>(概要) 人を対象とし、基礎研究と臨床研究の双方向での看護学トランスレーショナルリサーチの考え方を基盤に、ウェルネスの視点で、健康・疾病予防に関連した最新の研究動向を把握し健康支援方法を探求する。本科目の責任教員(単位認定教員)は赤瀬智子である。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (4 赤瀬智子 担当/9回) 看護学トランスレーショナルリサーチの考え方・手法を教授する。それを基盤に、基礎科学・バイオロジーの基礎研究から、臨床応用を目指すための方法論を教授する。皮膚障害予防のための、健康食品やサプリメント等の補完代替療法、生活習慣病予防等に関連した科学的根拠のある看護ケアを追及する。</p> <p>(5 中村幸代 担当/6回) 看護学トランスレーショナルリサーチの考え方を基盤に、ウェルネスの視点で、臨床研究から基礎的根拠への追求を教授する。周産期における冷え症、妊婦のヘルスプロモーションに対する効果的支援、分娩期のリスク要因等に関連した科学的根拠のある看護ケアを追及する。</p>	オムニバス方式
	発達療養支援看護学特論	<p>(概要) 小児・小児期発症の慢性疾患や障害をもつ人々の看護に関する理論・概念・モデルの検討および国内外の研究成果の吟味を通じて、これらの人々が抱える複雑多様な課題状況の概念化および発達・療養支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討し、患児(者)と家族のQOLを高める援助方法を探求する。本科目の責任教員(単位認定教員)は廣瀬幸美である。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (6 廣瀬幸美 担当/7回) 発達療養支援看護学に適用される理論あるいはモデルについて研究論文をレビューし、患児(者)と家族のQOLを高める援助方法を探求するとともに、先天性疾患児とその家族の健康問題とケアに関する国内外の研究動向をレビューし、発達療養支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討する。</p> <p>(12 佐藤朝美 担当/4回) 障害のある医療依存度の高い難病児(者)とその家族の健康課題とケアに関する国内外の研究動向をレビューし、発達支援および療養支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討する。</p> <p>(13 落合亮太 担当/4回) 小児期発症の慢性疾患患者に対する成人期への移行期支援に関する国内外の研究動向をレビューし、発達支援および療養支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討する。</p>	オムニバス方式
	老年看護学システム開発特論	<p>(概要) 高齢者の健康増進や健康課題解決に関する看護方法やシステムに関する国内外の研究知見をふまえて学修し、高齢者のQOL向上を目指した高齢社会に寄与する援助方法およびシステムを開発するための理論体系について探求する。本科目の責任教員(単位認定教員)は叶谷由佳である。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (7 叶谷由佳 担当/7回) 高齢者の疾病回復・健康増進のための介入・高齢者への効果的対応といった看護方法や病院における退院支援や高齢者施設を含めた多職種連携などのシステム開発に関する方法論を探究する。</p> <p>(8 柏木聖代 担当/8回) 高齢社会における在宅看護・ケアシステムに関する諸問題について、多角的視点からの現状分析、課題の抽出を行い、質の高い在宅看護・介護サービスの提供や地域連携体制を構築するためのシステム開発およびその検証のための方法論を探求する。</p>	オムニバス方式
	アディクション看護学開発特論	<p>(概要) アディクションと物質使用障害の定義、背景、病態生理ならびに、アディクション看護学の基盤となるシステム・アプローチ等の諸理論を学修し、アディクション看護学の開発に関わる国内外の先行研究、先駆的研究を批判的にレビューする。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域ケアシステム看護学特論	<p>(概要) 地域で生活するさまざまな個人、家族、集団、地域(コミュニティ)の健康課題と健康リスク要因について多角的かつ系統的に国内外のエビデンスを吟味するとともに、それらを勘案した地域ケアシステムおよび地域ケアプログラムの理論体系を探究する。本科目の責任教員(単位認定教員)は田高悦子である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (10 田高悦子 担当/7回) 地域看護診断論: 地域の健康課題と健康リスク要因の明確化に向けた理論および技法をおさえるとともに、地域住民の健康課題と健康リスク要因をふまえた地域ケアシステム・地域ケアプログラムの理論体系を教授する。 (14 大河内彩子 担当/4回) 地域における障害児(者)の健康課題に関わるリスク要因と予防方策をふまえた地域ケアシステムおよび地域ケアプログラムの理論体系について教授する。 (15 有本梓 担当/4回) 地域における養育期の家族の健康課題に関わるリスク要因と予防方策をふまえた地域ケアシステムおよび地域ケアプログラムの理論体系について教授する。</p>	オムニバス方式
演習・研究指導	看護学特別演習	<p>下記に挙げる各領域の中から、学生は先行履修した各専門科目(特論)に準じて1つを選択する。当該領域における国内外の先行研究の動向と最新の研究課題について系統的かつ批判的にレビューすることができるよう指導する。</p> <p><b>【看護ケアシステム開発学】</b> (1 佐藤政枝・11 塚越みどり 担当/全30回) (共同) 看護ケアシステム開発学特論の学修をふまえ、慢性的な健康課題をもつ人々の環境移行や適応を支援する看護実践の方略、それらを勘案したケアプログラムおよびケアシステムの開発、その基盤となる理論構築に関する国内外の先行研究の動向と課題について系統的かつ批判的にレビューを行い、研究課題を明確化できるよう指導する。</p> <p><b>【看護管理学システム】</b> (2 勝山(青木) 貴美子 担当) 看護管理学システム特論の学修をふまえ、看護管理学の特定の看護現象をより妥当性の高いアプローチを用いて探究するための基盤となる能力を養う。そのために、研究テーマに関連する概念を選定し、概念分析を行い、科学的な理論またはモデルを構築する。看護管理学における国内外の研究のシステムティックレビューや概念分析を行い、体系的にレビューすることができるよう指導する。</p> <p><b>【感染看護学開発】</b> (3 渡部節子 担当) 感染看護学開発特論の学修をふまえ、医療関連施設における各個人の感染看護学領域の課題に向けてエビデンスやHigh impact interventionの手法としてのケアバンドル、看護介入プログラムなどの先行研究、特に先駆的な研究の動向について系統的かつ批判的にレビューし、研究課題を明確化できるよう指導する。</p> <p><b>【健康支援看護学】</b> 健康支援看護学特論の学修をふまえ、看護学トランスレーショナルリサーチの考え方を基盤に、基礎と臨床の双方向のウェルネスの視点で、健康支援に関わる国内外の先行研究の動向と課題について系統的かつ批判的にレビューし、研究課題を明確化できるよう指導する。本科目の責任教員(単位認定教員)は赤瀬智子である。</p> <p>(オムニバス方式/30回) (4 赤瀬智子 担当/16回) スキニングケア、生活習慣病予防、補充代替療法等の健康支援に関する基礎研究を多角的に深く理解するとともに、エビデンスの構築に関わる国内外の先行研究の動向と課題について系統的かつ批判的にレビューすることができるよう指導する。 (5 中村幸代 担当/14回) 臨床から基礎へウェルネスの視点で、周産期における冷え症、妊婦のヘルスプロモーションに対する効果的支援等を多角的に深く理解するとともに、エビデンスの構築に関わる国内外の先行研究の動向と課題について系統的かつ批判的にレビューすることができるよう指導する。</p> <p><b>【発達療養支援看護学】</b> (6 廣瀬幸美・12 佐藤朝美・13 落合亮太 担当/30回) (共同) 発達療養支援看護学特論の学修をふまえ、発達療養支援看護学における国内外の先行研究の動向と最新の研究課題について体系的かつ多角的にレビューし、研究課題を明確化できるよう指導する。</p>	<p>共同</p> <p>オムニバス方式</p> <p>共同</p>

### 授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究指導	看護学特別演習	<p>【老年看護学システム開発】 (7 叶谷由佳・8 柏木聖代 担当/30回) (共同) 老年看護学システム開発特論の学修をふまえ、高齢者の健康増進や健康課題解決のための看護方法や多職種連携、高齢者への在宅看護・介護サービスの質評価などのシステム開発に関する国内外の先行研究の動向と課題についてレビューし、研究課題を明確化できるよう指導する。</p> <p>【アディクション看護学開発】 (9 松下年子 担当) アディクション看護学開発特論の学修をふまえ、アディクション看護学に関する国内外の先行研究の動向について系統的かつ多角的にレビューし、研究課題を明確化できるよう指導する。</p> <p>【地域ケアシステム看護学】 (10 田高悦子・14 大河内彩子・15 有本梓 担当/30回) (共同) 地域ケアシステム看護学特論の学修をふまえ、地域ケアシステム看護学における国内外の先行研究の動向について系統的かつ多角的にレビューし、研究課題を明確化できるよう指導する。</p>	共同           共同
	看護学特別研究 I	<p>下記に挙げる各研究領域の中から、学生は先行履修した共通科目、各専門教育科目(特論)および看護学特別演習に準じて1つを選択する。自らの博士論文として取り組むべき研究テーマを明確化し、当該研究テーマにおける研究計画書を立案・作成することができるよう研究指導を行う。</p> <p>(1 佐藤政枝 担当) 慢性的な健康課題をもつ人々の環境移行を支援する環境調整や適応を支援する看護実践の方略を明確化するとともに、それらを勘案したケアプログラムおよびケアシステムの開発とその理論構築に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(2 勝山(青木) 貴美子 担当) 医療コミュニケーション分析や組織の看護サービスの質改善における職務満足、人材育成を取り上げて、組織の特性に応じた看護管理学システム構築のために、病院・看護管理学、情報管理学、組織倫理学などをふまえた研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(3 渡部節子 担当) 医療関連施設内における感染管理および感染看護ケアとしての課題解決に向けてエビデンスをもとにケアバンドルや看護介入プログラムの開発に関わる研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるように指導する。</p> <p>(4 赤瀬智子 担当) 健康支援へ臨床応用していくための基礎研究としての科学的根拠のある看護ケアを目指し、生活習慣病予防、補完代替療法、皮膚生理機能や障害等に関する研究テーマを設定し、基礎実験的手法から研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(5 中村幸代 担当) 臨床研究から基礎的根拠へ帰納していくために、科学的根拠のある看護ケアを目指し、周産期における冷え症と異常分娩、妊婦のヘルスポモーションに対する効果的支援等に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(6 廣瀬幸美 担当) 先天性疾患や慢性疾患のある子どもと家族の発達段階と健康課題に応じた療養支援方法およびその療養行動に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(7 叶谷由佳 担当) 高齢者の健康増進や高齢者特有の健康課題への看護方法や多職種連携等、高齢者が質の高い生活を送るための支援開発に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p>	



## 授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究指導	研究指導科目 看護学特別研究 I	<p>(8 柏木聖代 担当) 在宅看護・介護サービスの質の評価および質の高いサービスを提供する体制の構築とその検証に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(9 松下年子 担当) 依存症予防、依存症者の早期発見および介入等アディクション看護学の開発につながる研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(10 田高悦子 担当) 地域住民の健康長寿や社会的孤立予防等、地域全体における健康課題の予防を重視した地域ケアシステムの開発に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(11 塚越みどり 担当) 健康問題をもつ患者のアセスメントと温熱療法の科学的根拠に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(12 佐藤朝美 担当) 障害のある医療依存度の高い難病児(者)とその家族の健康課題に応じた支援内容および支援方法に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(13 落合亮太 担当) 小児期発症の慢性疾患患者とその家族の発達段階と健康課題に応じた成人期への移行期支援に関する課題抽出と支援方法に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(14 大河内彩子 担当) 地域における障害児(者)の健康課題の抽出とその予防および支援方法に関わる地域ケアシステムの整備・開発に関する研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p> <p>(15 有本梓 担当) 地域における養育期の家族(乳幼児を持つ家族)の健康課題の抽出とその予防および支援方法に関わる地域ケアシステムの整備・開発に向けた研究テーマを設定し、研究計画書を立案・作成できるよう指導する。</p>	
	看護学特別研究 II	<p>下記に挙げる各研究領域において、学生が先行履修した看護学特別研究 I の学修をふまえ、自らの博士論文テーマ・研究計画に沿ってデータ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(1 佐藤政枝 担当) 看護学特別研究 I をふまえ、慢性的な健康課題をもつ人々の環境移行を支援する環境調整や適応を支援する看護実践の方略を明確化するとともに、それらを勘案したケアプログラムおよびケアシステムの開発とその理論構築に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(2 勝山(青木)貴美子 担当) 看護学特別研究 I をふまえ、医療コミュニケーション分析や組織の看護サービスの質改善における職務満足、人材育成を取り上げて、組織の特性に応じた看護管理学システム構築のために、病院・看護管理学、情報管理学、組織倫理学などをふまえた研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演 習 ・ 研 究 指 導	看護学特別研究Ⅱ	<p>(3 渡部節子 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、医療関連施設内における感染管理および感染看護ケアとしての課題解決に向けてエビデンスをもとにケアバンドルや看護介入プログラムの開発に関わる研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(4 赤瀬智子 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、健康支援へ臨床応用していくための基礎研究としての科学的根拠のある看護ケアを目指し、生活習慣病予防、補充代替療法、皮膚生理機能や障害等に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(5 中村幸代 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、臨床研究から基礎的根拠へ帰納していくために、科学的根拠のある看護ケアを目指し、周産期における冷え症と異常分娩、妊婦のヘルスプロモーションに対する効果的支援等に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(6 廣瀬幸美 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、先天性疾患や慢性疾患のある子どもと家族の発達段階と健康課題に応じた療養支援方法およびその療養行動に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(7 叶谷由佳 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、高齢者の健康増進や高齢者特有の健康課題への看護方法や多職種連携等、高齢者が質の高い生活を送るための支援開発に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(8 柏木聖代 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、在宅看護・介護サービスの質の評価および質の高いサービスを提供する体制の構築とその検証に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(9 松下年子 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、依存症予防、依存症者の早期発見および介入等アディクション看護学の開発につながる研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(10 田高悦子 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、地域住民の健康長寿や社会的孤立予防等、地域全体における健康課題の予防を重視した地域ケアシステムの開発に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(11 塚越みどり 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、健康問題をもつ患者のアセスメントと温熱療法の科学的根拠に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・ 研究指導	看護学特別研究Ⅱ	<p>(12 佐藤朝美 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、障害のある医療依存度の高い難病児(者)とその家族の健康課題に応じた支援内容および支援方法に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(13 落合亮太 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、小児期発症の慢性疾患患者とその家族の発達段階と健康課題に応じた成人期への移行期支援に関する課題抽出と支援方法に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(14 大河内彩子 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、地域における障害児(者)の健康課題の抽出とその予防および支援方法に関わる地域ケアシステムの整備・開発に関する研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p> <p>(15 有本梓 担当) 看護学特別研究Ⅰをふまえ、地域における養育期の家族(乳幼児を持つ家族)の健康課題の抽出とその予防および支援方法に関わる地域ケアシステムの整備・開発に向けた研究テーマ・研究計画に沿って、データ収集、データ分析等の研究活動を自律的に遂行できるよう研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究指導	看護学特別研究Ⅲ	<p>下記に挙げる各研究領域において、学生が先行履修した看護学特別研究ⅠおよびⅡの学修をふまえ、自らの博士論文テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論を明確化し、博士論文を完成することができるよう研究指導を行う。</p> <p>(1 佐藤政枝 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、慢性的な健康課題をもつ人々の環境移行を支援する環境調整や適応を支援する看護実践の方略を明確化するとともに、それらを勘案したケアプログラムおよびケアシステムの開発とその理論構築に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(2 勝山(青木) 貴美子 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、医療コミュニケーション分析や組織の看護サービスの質改善における職務満足、人材育成を取り上げて、組織の特性に応じた看護管理学システム構築のために、病院・看護管理学、情報管理学、組織倫理学などをふまえた研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(3 渡部節子 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、医療関連施設内における感染管理および感染看護ケアとしての課題解決に向けてエビデンスをもとにケアバンドルや看護介入プログラムの開発に関わる研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(4 赤瀬智子 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、健康支援へ臨床応用していくための基礎研究としての科学的根拠のある看護ケアを目指し、生活習慣病予防、補充代替療法、皮膚生理機能や障害等に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(5 中村幸代 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、臨床研究から基礎的根拠へ帰納していくために、科学的根拠のある看護ケアを目指し、周産期における冷え症と異常分娩、妊婦のヘルスプロモーションに対する効果的支援等に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(6 廣瀬幸美 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、先天性疾患や慢性疾患のある子どもと家族の発達段階と健康課題に応じた療養支援方法およびその療養行動に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(7 叶谷由佳 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、高齢者の健康増進や高齢者特有の健康課題への看護方法や多職種連携等、高齢者が質の高い生活を送るための支援開発に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(8 柏木聖代 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、在宅看護・介護サービスの質の評価および質の高いサービスを提供する体制の構築とその検証に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究指導	看護学特別研究Ⅲ	<p>(9 松下年子 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、依存症予防、依存症者の早期発見および介入等アディクション看護学の開発につながる研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(10 田高悦子 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、地域住民の健康長寿や社会的孤立予防等、地域全体における健康課題の予防を重視した地域ケアシステムの開発に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(11 塚越みどり 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、健康問題をもつ患者のアセスメントと温熱療法の科学的根拠に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(12 佐藤朝美 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、障害のある医療依存度の高い難病児(者)とその家族の健康課題に応じた支援内容および支援方法に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(13 落合亮太 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、小児期発症の慢性疾患患者とその家族の発達段階と健康課題に応じた成人期への移行期支援に関する課題抽出と支援方法に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(14 大河内彩子 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、地域における障害児(者)の健康課題の抽出とその予防および支援方法に関わる地域ケアシステムの整備・開発に関する研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p> <p>(15 有本梓 担当) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえ、地域における養育期の家族(乳幼児を持つ家族)の健康課題の抽出とその予防および支援方法に関わる地域ケアシステムの整備・開発に向けた研究テーマ・研究計画に沿って、研究の目的、方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させることができるよう研究指導を行う。</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学研究科看護学専攻博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護学研究論	1前	2			○			8							オムニバス
	医療倫理論	1前	2			○			1						兼1	オムニバス
	医療統計学	1前	2			○			1						兼2	オムニバス
	看護学教育論	1・2前		2		○			1						兼1	オムニバス
	医療心理学	1・2前		2		○			1						兼1	オムニバス
	小計(5科目)	—	6	4	0	—			9	0	0	0	0	兼5	—	
専門科目	看護ケアシステム開発学特論	1前		2		○			1	1						オムニバス
	看護管理学システム特論	1前		2		○			1							
	感染看護学開発特論	1前		2		○			1							
	健康支援看護学特論	1前		2		○			2							オムニバス
	発達療養支援看護学特論	1前		2		○			1	2						オムニバス
	老年看護学システム開発特論	1前		2		○			2							オムニバス
	アディクション看護学開発特論	1前		2		○			1							
	地域ケアシステム看護学特論	1前		2		○			1	2						オムニバス
小計(8科目)	—	0	16	0	—			10	5	0	0	0	0	0	—	
演習・研究指導	看護学特別演習	1後	2				○		10	5						オムニバス または共同
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			10	5	0	0	0	0	—	
研究指導	看護学特別研究Ⅰ	1後	2				○		10	5						
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2				○		10	5						
	看護学特別研究Ⅲ	3通	4				○		10	5						
	小計(3科目)	—	8	0	0	—			10	5	0	0	0	0	—	
合計(17科目)		—	16	20	0	—			10	5	0	0	0	兼5	—	
学位又は称号	博士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
3年以上在籍し、共通科目から6単位以上、専門科目から2単位以上、演習・研究指導科目から10単位以上の計18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで博士の学位論文を提出し、最終審査および最終試験に合格すること。							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							